

山形・大楯遺跡 おわたて

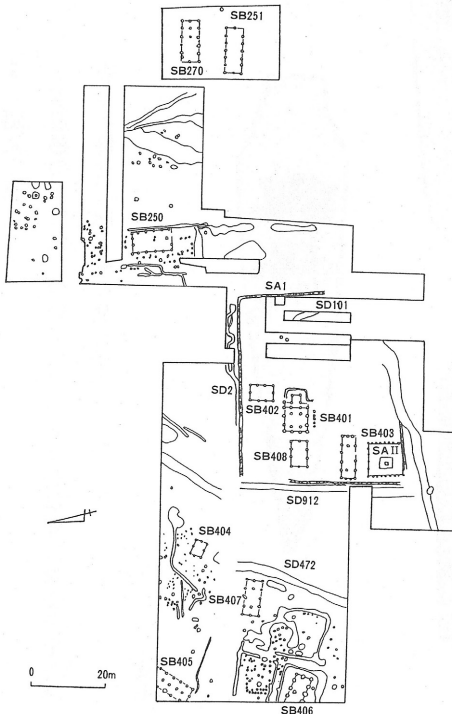
- 1 所在地 山形県飽海郡遊佐町大字小原田字大楯・大楯
- 2 調査期間 第二次調査 一九八八年(昭63)五月～九月
- 3 発掘機関 山形県教育委員会
- 4 調査担当者 伊藤邦弘・庄司 功・岡部政宜
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



大楯遺跡は、山形県北西部に広がる庄内平野の北端、遊佐町に所在する。本遺跡の北を西流する月光川の氾濫原と自然堤防上に立地

し、標高はおよそ一六mである。発掘調査は、県営圃場整備事業に伴う緊急発掘調査で、一九八七年に第一次調査を行ない、木簡が出土している(本誌第一〇号)。今回の調査では、第一次調査に続く角材を用いた柵木列が南を除く三面で確認さ

れたほか、柵木列に囲まれた内部に礎石建物一棟、掘立柱建物三棟、柵外部に四棟の掘立柱建物、井戸、溝などが検出された。特に柵木列内の礎石建物SB四〇一の特異な構造から、宗教的な色彩が強く感じられ、注目される場所である。二点の木簡が出土した遺構は、柵木列SA一西面の外に平行する溝SD九一二である。幅は一・七～二・八m、深さは二三～三〇cmを測り、長さは二八mまで確認した。その他の出土遺物には、多数の木製品と珠洲系陶器、かわらけ、青磁などがある。これらの遺物から本遺跡の主体は一三世紀と考えられる。



大楯遺跡遺構配置図

元年間の所産と考えられるものは認められない。(2)については下端が欠損しているものの、文字自体は完結しているものと考えられる。なお本遺跡は、遊佐町教育委員会によって第三、第四次調査が行なわれ、その重要性から保存されるに至っている。

本簡の積文については、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

9 関係文献

山形県教育委員会『大楯遺跡第二次発掘調査報告書』(一九八九年)

(伊藤邦弘)